

ポジティブ教育と成育環境要因 (3)

—強み4要因と学校・家庭の目標構造—

○島井哲志 (関西福祉科学大学)
宇恵 弘 (関西福祉科学大学)

竹橋洋毅 (奈良女子大学)
津田恭充 (関西福祉科学大学)

キーワード：目標構造，達成目標，強み

問 題

24種類の強み(character strengths)について、勇気、独創性などの知力、自己制御、思慮深さなどの統制力、希望、審美心などの人間力、親切心、親密性などの対人力の4要因が示されている。

強みに関しては、介入法などの報告があるが、どのように強みが育成されるのかといった環境要因の検討はほとんどないのが現状である。

ここでは、強みの4要因得点とグリットの関係を検討し、その後、第1報告と同様に回帰分析を用いて、強み4要因と子どもの頃の社会的要因の関係について検討した。

方 法

調査手続きと対象 インターネット調査で実施し、対象者は就労者1,600名(20-59歳の男女)。

調査内容 現在のグリット(竹橋ら, 2018)、人格的強み(CST-24)のほか、社会的要因について、中学時代の学校の関わり：学校の習得重視、遂行重視(Roeserら, 1996)、学校享受感、親の習得重視、遂行重視、社会性重視、親からの愛着(内海, 2013)、幼少期の裕福さと予測困難性(Griskeviciusら, 2013)。強みの4要因得点は合計し平均値を用いた。なお、一連の発表は、同じデータセットを用いた分析である。なお、本研究は関西福祉科学大学研究倫理審査(承認番号18-46)を受けて実施された。

結果と考察

強みとグリットの相関結果を見ると(Table1)、すべての強みが、全体には関連があったが、下位因子では、興味の一貫性では関連はほとんどなかったのに対して、努力では関連が明確であった。

Table 1 強み4要因と現在のグリットの関連(n=1600)

	グリット全体	努力の一貫性	興味の一貫性
知力	.504	.665	.074
統制力	.435	.509	-.017
人間力	.364	.522	.104
対人力	.411	.506	.051

強みの4要因を従属変数とし、報告1と同じ独立変数を用いてステップワイズ法による重回帰分析を行った(Table2)。全般的に、強みには学校や親の習得重視が関連をもち、また、人間力や対人力の強みでは、親の社会重視が大きな関連があった。強みを育成していく働きかけとしては、社会に役立つ人間となることを親が望むことが重要な役割をもつ可能性を示した。

Table 2 強み4要因を従属変数とする回帰分析

知力	β	95%下限	95%上限
習得重視_親	.086	.031	.191
学校享受感	.139	.083	.188
社会重視_親	.139	.091	.223
遂行重視_学校	.079	.034	.144
習得重視_学校	.127	.102	.272
年齢	.099	.005	.014
裕福さ_幼	.093	.041	.131
予測不能性_幼	.023	.003	.092
R^2	.174		
統制力	β	95%下限	95%上限
社会重視_親	.140	.085	.215
学校享受感	.105	.048	.146
習得重視_学校	.113	.079	.239
年齢	.102	.005	.013
親からの愛着	.100	.030	.107
習得重視_親	.066	.003	.160
R^2	.150		
人間力	β	95%下限	95%上限
社会重視_親	.255	.242	.369
学校享受感	.152	.104	.211
性別	.102	.124	.306
習得重視_学校	.110	.091	.254
親からの愛着	.079	.020	.101
年齢	.074	.003	.012
遂行重視_学校	.056	.012	.120
裕福さ_幼	.058	.017	.104
R^2	.233		
対人力	β	95%下限	95%上限
社会重視_親	.176	.147	.277
学校享受感	.194	.148	.257
親からの愛着	.124	.054	.135
習得重視_学校	.115	.097	.264
遂行重視_学校	.075	.036	.145
年齢	.056	.001	.010
性別	.050	.012	.198
R^2	.202		

付記 本研究は、平成30・31年度関西福祉科学大学共同研究費による。